慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	小林, 健治(Kobayashi, Kenji)
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2017
Jtitle	新版 窮理図解 No.24 (2017. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000024-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究するということ

古川 良明

私は、金属タンパク質の構造・機能を中心に、バクテリアの生態からヒト疾患の発症メカニズムまで、比較的幅の広い研究を行っていると自負しています。そのため、「何の研究をしているのですか？」と聞かれたときには、相手の反応を伺いながら異なる答えをします。今回のインタビューでも、どの研究の話をしようかと迷いました。でも、「なぜ研究をするのですか？」と問われれば、その答えはただ一つ、「楽しいから」です。

研究するということを、皆さんはどのように考えていますか？研究は難解なものなので、分かりにくいほど素晴らしいといった印象を持っているかも知れません。確かに、研究の内容を理解するには色々な下準備（勉強）が必要ですが、研究すること自体を難しく考える必要は全くありません。例えば、遊びの延長線上にあるのが研究であると考えてみてはどうでしょうか。

子どもの頃に鬼ごっこをして遊んだことを思い出してみてください。新しい隠れ場所を探したり、鬼から逃げるために突拍子もない方法を考えたりして楽しかったでしょう？研究活動も全く同じです。新しいものを発見したい、みんなを驚かせたい、そういった欲求が研究の原動力です。どんなに小さな発見でも、最初に発表した研究者だけが勝者となることができます。だから、世界中の研究者が虎視眈々と勝者の座を狙っています。でも鬼ごっこと同じで、皆が本気だからこそ楽しい。

そんなに楽しいはずなのに、研究者を目指す学生が最近は少なくなったと、悲鳴にも近い声をあちこちで聞きます。その理由は色々でしょうが、インターネットや SNS の普及に伴って、研究者のネガティブな側面（不安定な雇用など）だけが流布していることは非常に残念です。ネット社会なんて言葉すらなかった私の時代には、身近にいる先輩や先生といった生身の成功例からの情報しかなかったので、いわば「知らぬが仏」の状態で躊躇することなく研究に没頭できました。大企業への就職ばかりを目指すのでなく、周囲の雑音は一度さておいて、実験・研究に真剣に取り組んでみませんか。何事も真剣に楽しめば人生はなんとかなります。研究という「遊び」に本気で興じるのも、意外と悪くないですよ。

理 工 学 Information

慶應理工の産官学連携体制ご紹介

理工学部では、産業界や自治体と密接な連携研究体制を構築し、研究成果の社会還元と人材育成に取り組んでいます。
また、研究大学強化促進事業やスーパーグローバル大学創生支援事業により、研究体制の一層の強化を進めています。

国・自治体
民間企業
大学・研究機関

矢上キャンパス（横浜市）

慶應義塾先端科学技術研究センター（KLL）
【連携研究支援・人材育成】
研究成果の社会還元

デザインセンター マニュファクチュアリングセンター
【ものづくり研究支援】
最先端の工作機械を整備

慶應義塾イノベーションファウンダリー（KIF）
【大型研究プロジェクト】
産業界との連携で推進

慶應―神奈川ものづくり技術実証・評価センター
【地域企業の実用化支援】
ナノ加工装置を整備

新川崎タウンキャンパス

新川崎先端研究教育連携スクエア（K^2）
【先端分野の研究教育】
産官学が連携する拠点を形成

編集後記

生物はその進化の過程で、金属イオンを金属タンパク質として利用する巧妙なしくみを獲得してきたのですね。近年、ライフサイエンス研究は分子・原子レベルでの謎解きが進み、幅広い分野で人間社会を支えていくことが期待されています。慶應義塾大学も、理工学、医学、薬学の各分野での最先端の研究により、その一翼を担っていければと思います。古川先生の研究室では、たくさんの化学実験器具が並ぶ中、学生の皆さんが真剣に研究に取り組んでいる姿がとても印象的でした。（小林健治）

新版 窮理図解
No.24 2017 February

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦（GRID）
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 青山藤詞郎
発行 慶應義塾大学理工学部
〒 223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
問い合わせ先（新版窮理図解全般）
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先（産学連携）
kll-liaison@adst.keio.ac.jp
web 版 http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai
facebook http://www.facebook.com/keiokyuri